

性別による無意識の思い込み
(アンコンシャス・バイアス)に関する市民意識調査
-概要版-

令和8年3月

鹿児島市

目次

◆ 市全体

調査の概要	1
回答者の基本情報	2
性別役割意識	3
性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験	6
性別役割意識と経験の男女差比較	11

◆ 学生

調査の概要	12
回答者の基本情報	13
性別役割意識	14
性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験	16
性別役割意識と経験の男女差比較	19
男女平等意識	20
本市への定住意向	21
本市に定住すると仮定した場合の不安・懸念点	24

市全体／調査の概要

◆ 調査対象

本市に住む 18 歳以上の市民 2,000 人（無作為抽出）

◆ 実施方法

郵送による配布・回収およびインターネット上での回収

◆ 調査期間

令和 7 年 6 月 26 日～同年 8 月 5 日

◆ 有効回答数・回収率

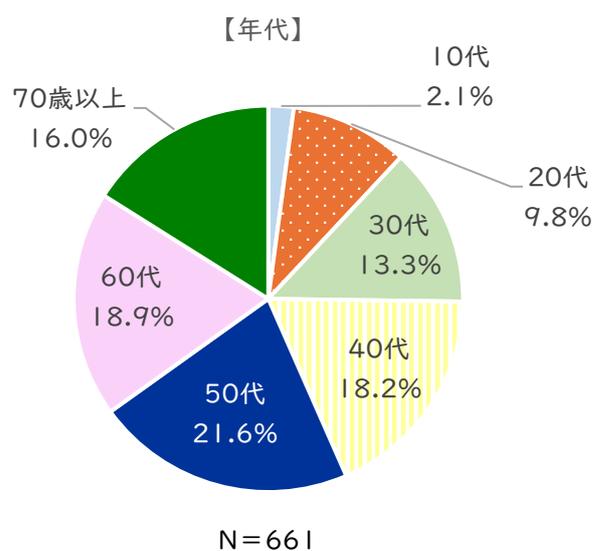
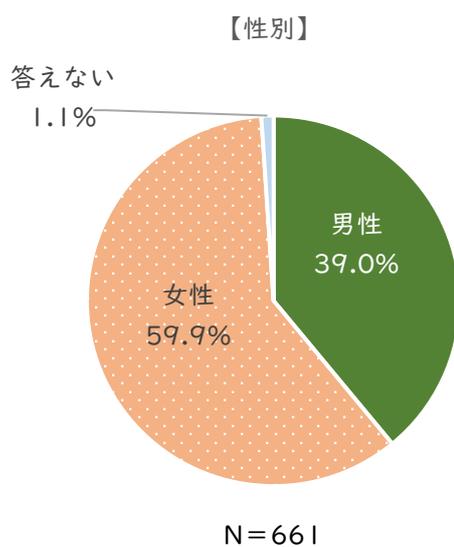
配布枚数	有効回答数
2,000件	661件（33.1％）

◆ 概要版を読む際の注意事項

- ・ 図表中の「N」（Number of cases の略）は、無回答を除いた設問に対する有効回答者の総数を示しており、回答者の構成比（％）を算出する際の基数となる。
- ・ 回答の比率（％）は、小数点第 2 位を四捨五入しているため、単一回答の設問でも各選択肢の回答に関する数値の合計が 100.0％にならない場合がある。
- ・ 回答の比率（％）は、質問の回答者数を基礎として算出しているため、複数回答の設問はすべての比率を合計すると、100.0％を超える場合がある。
- ・ 回答の比率（％）の差分等は、小数点第 2 位以下を含む元データに基づいて計算し、その結果を小数点第 2 位で四捨五入して小数点第 1 位まで表示しており、図表上で示す比率を単純に減算した値と、計算値が一部異なる場合がある。
- ・ 性別の質問で「答えない」を選択した回答者は、7 人（全体の 1.1％）であり、全体の集計結果には「答えない」の回答者を含む。図表等では、「答えない」の回答者の表示は省略している。
- ・ 比較対象として、全国のデータを引用した。データは、内閣府男女共同参画局が実施した「令和 4 年度 性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）に関する調査研究 調査結果」に基づいている。また、本市は郵送で調査を実施したが、全国はインターネット調査であり、調査手法が異なる。
- ・ 「アンコンシャス・バイアス」は、心理学の学術上は潜在的バイアスとも呼ばれる。これらは潜在的なものであることから、学術上、専門的な手法によって測定することは可能だが、意識的に回答を行うアンケート調査の手法で把握すること

は非常に困難であるとされている。したがって本調査は、心理学の学術上用いられるアンコンシャス・バイアスを調査するものではないことを申し添える。

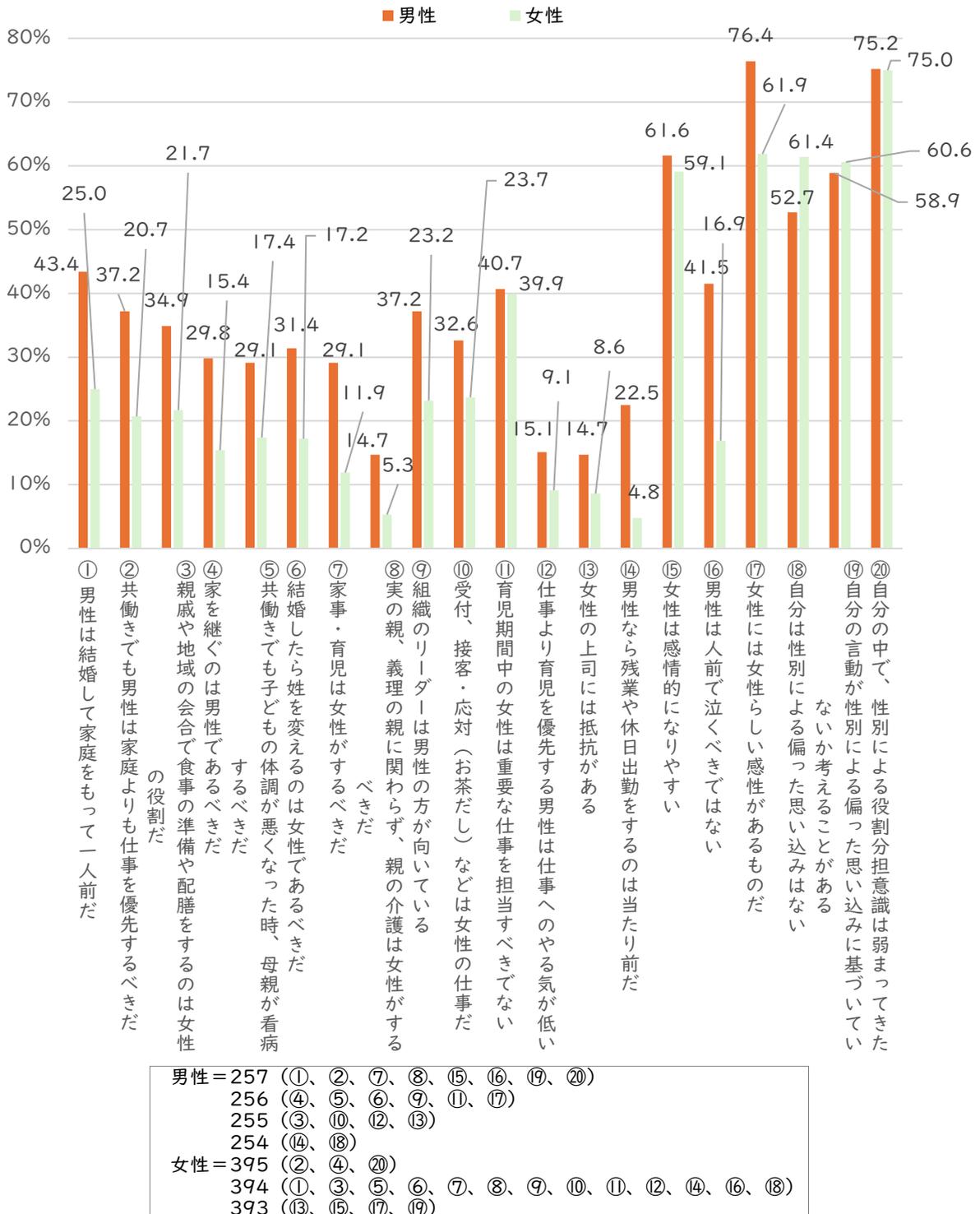
市全体／回答者の基本情報



市全体／性別役割意識

◆ 本市の男女比較

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合を比較すると、自己認識に関する3項目(⑱~⑳)を除いた全17項目で、男性の割合が女性よりも高い。



◆ 全国との比較

性別役割意識（自己認識に関する3項目を除く17項目）について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合を男女とも高い順に10位まで選出し、全国の調査結果と比較した。

15ポイント以上差が出たのは、男女とも「女性には女性らしい感性があるものだ」「女性は感情的になりやすい」という同じ2項目となっている。

多くの項目で本市の数値が高くなり、全体的には男性の方が全国との差が大きい。

全国と比較し15pt以上高い項目

男性 上位10位		鹿児島市 (%)	全国 (%)	鹿児島市-全国 (%)
1 (N=256)	女性には女性らしい感性があるものだ	76.4	45.7	30.7
2 (N=257)	女性は感情的になりやすい	61.6	35.3	26.3
3 (N=257)	男性は結婚して家庭をもって一人前だ	43.4	30.4	13.0
4 (N=257)	男性は人前で泣くべきではない	41.5	28.9	12.6
5 (N=256)	育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない	40.7	33.8	6.9
6 (N=257)	共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先すべきだ	37.2	28.4	8.8
6 (N=256)	組織のリーダーは男性の方が向いている	37.2	26.1	11.1
8 (N=255)	親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ	34.9	22.7	12.2
9 (N=255)	受付、接客・応対（お茶だし）などは女性の仕事だ	32.6	24.1	8.5
10 (N=256)	結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ	31.4	24.2	7.2

回答者数：鹿児島市 (N) 全国5452

女性 上位10位		鹿児島市 (%)	全国 (%)	鹿児島市-全国 (%)
1 (N=393)	女性には女性らしい感性があるものだ	61.9	43.1	18.8
2 (N=393)	女性は感情的になりやすい	59.1	37.0	22.1
3 (N=394)	育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない	39.9	33.2	6.7
4 (N=394)	男性は結婚して家庭をもって一人前だ	25.0	17.9	7.1
5 (N=394)	受付、接客・応対（お茶だし）などは女性の仕事だ	23.7	18.3	5.4
6 (N=394)	組織のリーダーは男性の方が向いている	23.2	20.9	2.3
7 (N=394)	親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ	21.7	16.2	5.5
8 (N=395)	共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先すべきだ	20.7	21.6	-0.9
9 (N=394)	共働きでも子どもの体調が悪くなった時、母親が看病すべきだ	17.4	20.3	-2.9
10 (N=394)	結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ	17.2	16.7	0.5

回答者数：鹿児島市 (N) 全国5384

◆ 男女・年代別

性別役割意識について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合を男女・年代別に比較した。

多くの項目で男性の高年齢層（50代以上）が最も高く、女性の若年層（特に20代）が最も低い割合となっており、世代間のギャップが顕著であることが示唆される。

差が30pt以上の項目

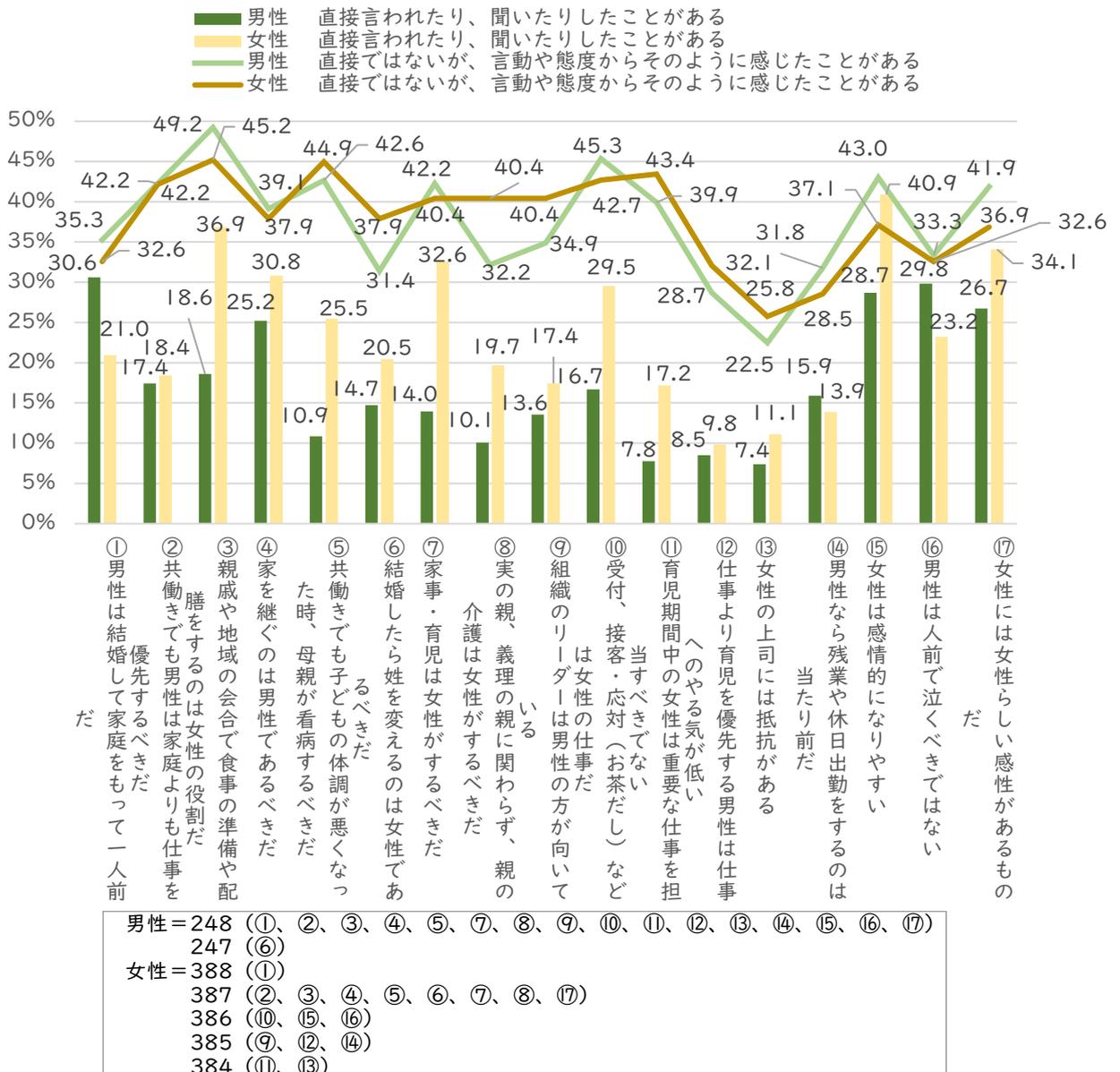
性別役割意識		最も高い (%)		最も低い (%)		最も高い-最も低い (%)
家庭・コミュニケーションでの場面	男性は結婚して家庭をもって一人前だ	男性,70歳以上 (N=54)	50.0	女性,20代 (N=40)	12.5	37.5
	共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先すべきだ	男性,70歳以上 (N=54)	44.4	女性,20代 (N=40)	7.5	36.9
	親戚や地域の会合で食事の準備や配膳するのは女性の役割だ	男性,50代 (N=53)	37.7	女性,20代 (N=40)	7.5	30.2
	家を継ぐのは男性であるべきだ	男性,50代 (N=53)	37.7	女性,60代 (N=70)	8.6	29.1
	共働きでも子どもの体調が悪くなった時、母親が看病すべきだ	男性,30代 (N=26)	38.5	女性,20代 (N=40)	10.0	28.5
	結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ	男性,70歳以上 (N=54)	35.2	女性,20代 (N=40)	7.5	27.7
	家事・育児は女性がすべきだ	男性,50代 (N=53)	34.0	女性,60代 (N=70)	5.7	28.3
実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がすべきだ	男性,70歳以上 (N=54)	20.4	女性,30代 (N=60)	1.7	18.7	
職場での場面	組織のリーダーは男性の方が向いている	男性,40代 (N=42)	52.4	女性,20代 (N=40)	12.5	39.9
	受付、接客・応対（お茶だし）などは女性の仕事だ	女性,70歳以上 (N=52)	46.2	男性,20代 (N=24)	16.7	29.5
	育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない	男性,20代 (N=24)	50.0	女性,30代 (N=60)	30.0	20.0
	仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い	男性,30代 (N=26)	23.1	男性,20代 (N=24)	0.0	23.1
	女性の上司には抵抗がある	男性,30代 (N=26)	23.1	女性,30代 (N=60)	3.3	19.8
	男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ	男性,70歳以上 (N=54)	27.8	女性,40代 (N=76)	1.3	26.5
その他	女性は感情的になりやすい	男性,40代 (N=42)	71.4	女性,20代 (N=40)	42.5	28.9
	男性は人前で泣くべきではない	男性,60代 (N=54)	59.2	女性,20代 (N=40)	0.0	59.2
	女性には女性らしい感性があるものだ	男性,60代 (N=54)	83.3	女性,20代 (N=40)	52.5	30.8

市全体／性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験

◆ 本市の男女比較

性別に基づく役割や思い込みを「直接言われたり、聞いたりした経験」において、男女間で最も大きな差が出たのは、「家事・育児は女性がするべきだ」（男性 14.0%、女性 32.6%）となり、女性の方が 18.6 ポイント高い。全体的には、女性の方が直接言われたり、聞いたりする経験が多い。

「言動や態度から感じた経験」において、男女間で最も大きな差が出たのは、「実の親、義理の親に関わらず親の介護は女性がするべきだ」（男性 32.2%、女性 40.4%）となり、女性の方が 8.2 ポイント高い。「直接言われたり、聞いたりした経験」と比較すると、男女差は全体的に小さい傾向にある。



◆ 全国との比較(直接言われたり、聞いたりした経験)

性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験について、「直接言われたり、聞いたりしたことがある」と回答した割合が高い順に男女とも10位まで選出し、全国の調査結果と比較した。

男女ともに全ての項目で、本市の方が高い割合となっており、全体的には女性のほうが全国との差が大きくなっている。

全国と比較し15pt以上高い項目

男性 上位10位		鹿児島市 (%)	全国 (%)	鹿児島市 - 全国 (%)
1(N=248)	男性は結婚して家庭をもって一人前だ	30.6	12.5	18.1
2(N=248)	男性は人前で泣くべきではない	29.8	11.1	18.7
3(N=248)	女性は感情的になりやすい	28.7	10.0	18.7
4(N=248)	女性には女性らしい感性があるものだ	26.7	9.0	17.7
5(N=248)	家を継ぐのは男性であるべきだ	25.2	10.2	15.0
6(N=248)	親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ	18.6	6.0	12.6
7(N=248)	共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ	17.4	7.7	9.7
8(N=248)	受付、接客・応対(お茶だし)などは女性の仕事だ	16.7	7.2	9.5
9(N=248)	男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ	15.9	6.3	9.6
10(N=247)	結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ	14.7	6.1	8.6

回答者数：鹿児島市(N) 全国5452

女性 上位10位		鹿児島市 (%)	全国 (%)	鹿児島市 - 全国 (%)
1(N=386)	女性は感情的になりやすい	40.9	17.8	23.1
2(N=387)	親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ	36.9	13.0	23.9
3(N=387)	女性には女性らしい感性があるものだ	34.1	14.1	20.0
4(N=387)	家事・育児は女性がするべきだ	32.6	15.2	17.4
5(N=387)	家を継ぐのは男性であるべきだ	30.8	13.5	17.3
6(N=386)	受付、接客・応対(お茶だし)などは女性の仕事だ	29.5	14.1	15.4
7(N=387)	共働きでも子どもの体調が悪くなった時、母親が看病するべきだ	25.5	11.7	13.8
8(N=386)	男性は人前で泣くべきではない	23.2	12.2	11.0
9(N=388)	男性は結婚して家庭をもって一人前だ	21.0	13.5	7.5
10(N=387)	結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ	20.5	10.3	10.2

回答者数：鹿児島市(N) 全国5384

◆ 全国との比較(言動や態度から感じた経験)

性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験について、「直接ではないが、言動や態度からそのように感じたことがある」と回答した割合が高い順に男女とも10位まで選出し、全国の調査結果と比較した。

「直接言われたり、聞いたりした経験」同様、すべての項目で本市の方が高い割合となっている。全体的には、男性の方が全国との差が大きい。

全国と比較し15pt以上高い項目

男性 上位10位		鹿児島市 (%)	全国 (%)	鹿児島市 - 全国 (%)
1(N=248)	親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ	49.2	17.6	31.6
2(N=248)	受付、接客・応対(お茶だし)などは女性の仕事だ	45.3	17.7	27.6
3(N=248)	女性は感情的になりやすい	43.0	18.8	24.2
4(N=248)	共働きでも子どもの体調が悪くなった時、母親が看病するべきだ	42.6	16.3	26.3
5(N=248)	共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ	42.2	16.7	25.5
5(N=248)	家事・育児は女性がするべきだ	42.2	20.2	22.0
7(N=248)	女性には女性らしい感性があるものだ	41.9	17.7	24.2
8(N=248)	育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない	39.9	16.0	23.9
9(N=248)	家を継ぐのは男性であるべきだ	39.1	18.0	21.1
10(N=248)	男性は結婚して家庭をもって一人前だ	35.3	18.5	16.8

回答者数：鹿児島市(N) 全国5452

女性 上位10位		鹿児島市 (%)	全国 (%)	鹿児島市 - 全国 (%)
1(N=387)	親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ	45.2	25.0	20.2
2(N=387)	共働きでも子どもの体調が悪くなった時、母親が看病するべきだ	44.9	23.2	21.7
3(N=384)	育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない	43.4	19.7	23.7
4(N=386)	受付、接客・応対(お茶だし)などは女性の仕事だ	42.7	24.3	18.4
5(N=387)	共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ	42.2	20.1	22.1
6(N=385)	組織のリーダーは男性の方が向いている	40.4	19.2	21.2
6(N=387)	実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ	40.4	22.3	18.1
6(N=387)	家事・育児は女性がするべきだ	40.4	28.9	11.5
9(N=387)	家を継ぐのは男性であるべきだ	37.9	21.7	16.2
9(N=387)	結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ	37.9	20.1	17.8

回答者数：鹿児島市(N) 全国5384

◆ 男女・年代別

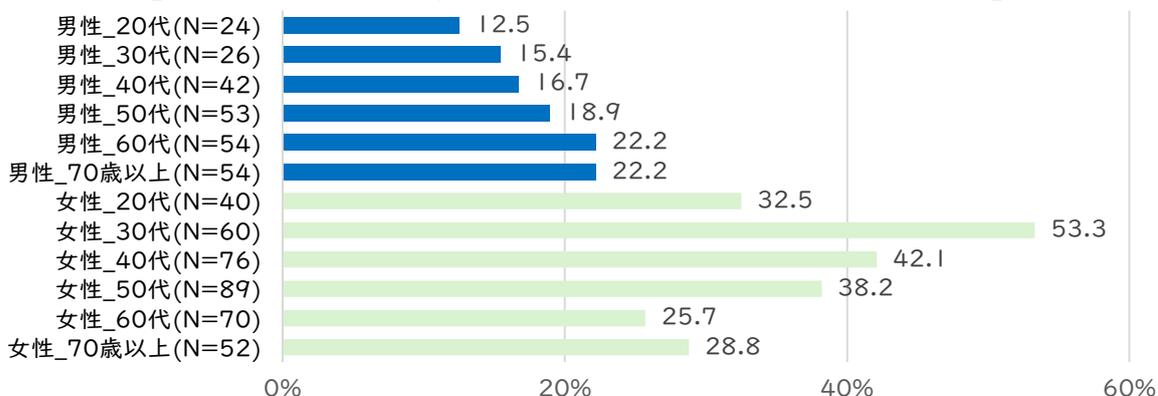
性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験について、「直接言われたり、聞いたりしたことがある」「直接ではないが、言動や態度からそのように感じたことがある」と回答した割合を男女・年代別に比較した。

【家庭・コミュニティでの場面】

～直接言われたり、聞いたりした経験～

「親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ」は、30代女性が最も高く、すべての男女・年代別の中で唯一5割を超えている。

【親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ】

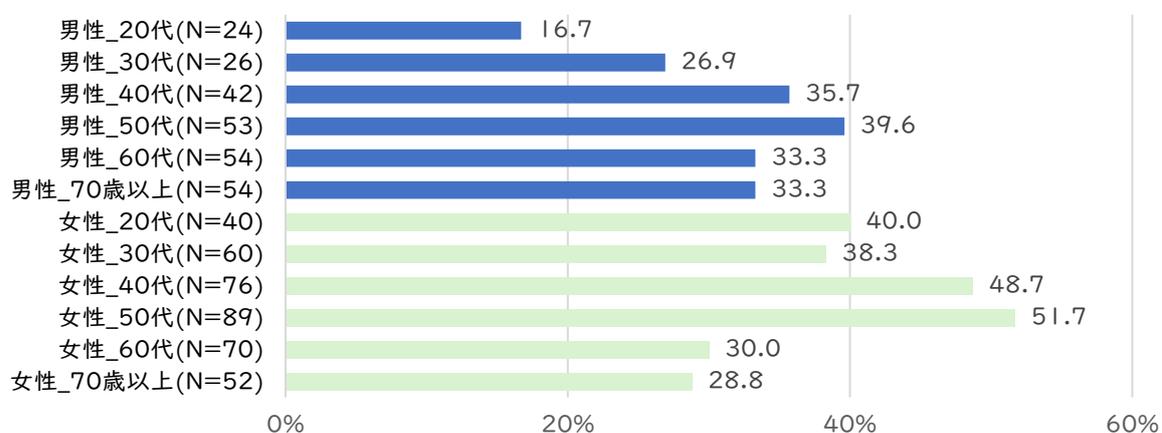


【家庭・コミュニティでの場面】

～言動や態度からそのように感じた経験～

「実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ」は、20代女性で4割となった一方、20代男性は2割に満たず、同じ年代でも男女で差がみられた。

【実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ】

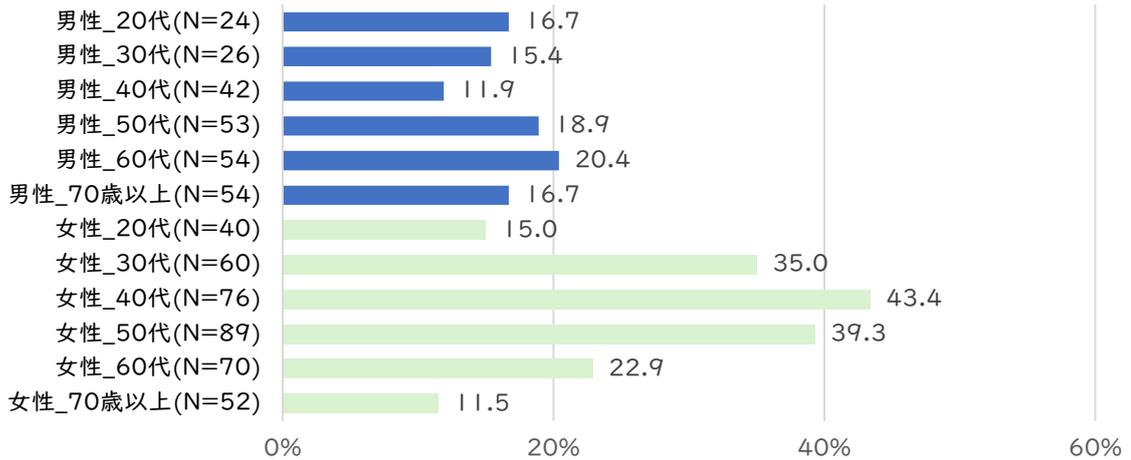


【職場での場面】

～直接言われたり、聞いたりした経験～

「受付、接客・応対（お茶だし）などは女性の仕事だ」は、40代女性で4割を超えた一方、40代男性では1割弱となり、同じ年代でも男女間で差が出ている。

【受付、接客・応対（お茶だし）などは女性の仕事だ】

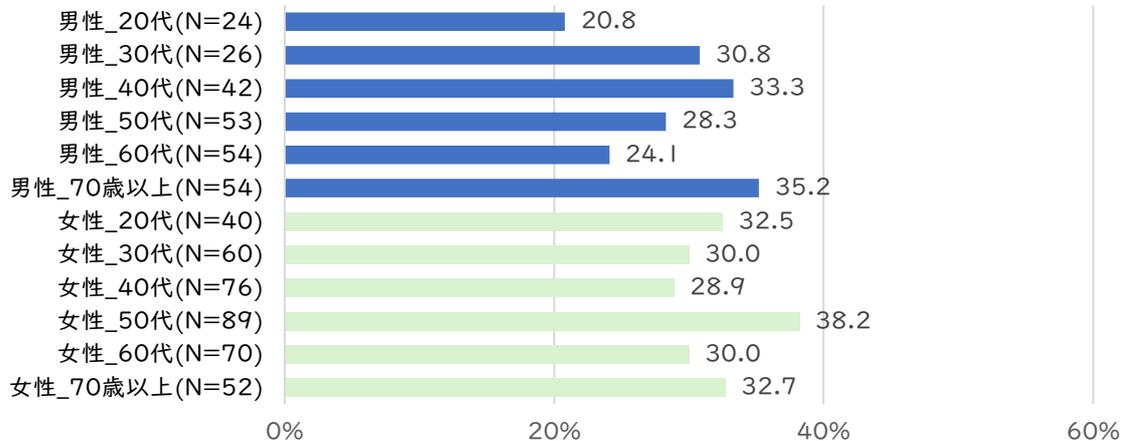


【職場での場面】

～言動や態度からそのように感じた経験～

「仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い」は、30～50代の男性で3割前後と比較的高い。性別役割への期待や断りづらさを、態度や職場の雰囲気から感じている可能性があると考えられる。

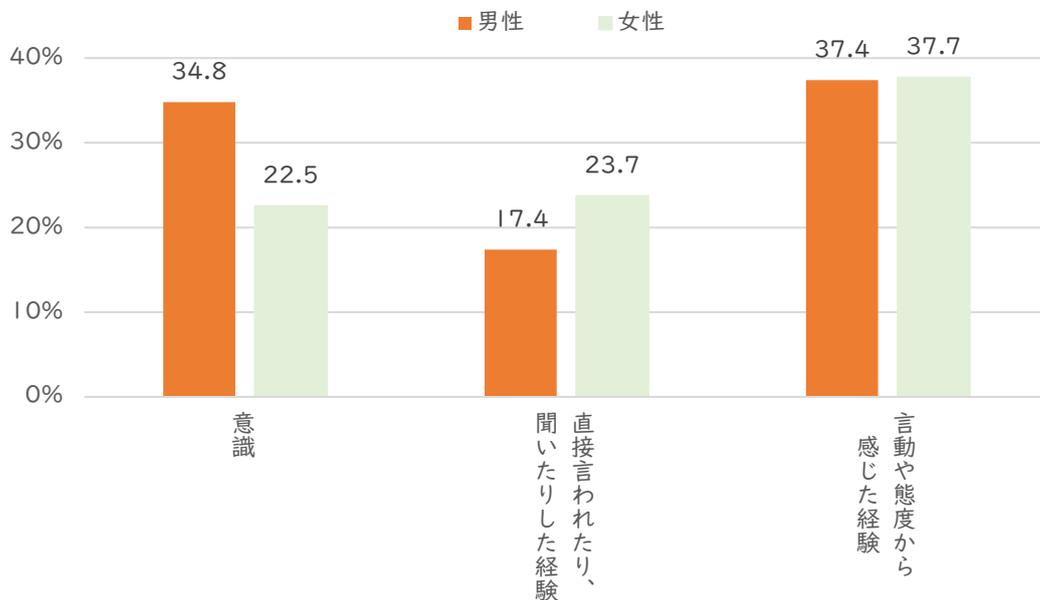
【仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い】



市全体／性別役割意識と経験の男女差比較

性別役割意識と、性別に基づく役割や思い込みを「直接言われたり、聞いたりした経験」、「直接ではないが、言動や態度からそのように感じた経験」の回答率について、平均値を男女別に算出し比較した。

性別役割「意識」は男性が女性を12.3ポイント上回った一方、「直接言われたり、聞いたりした経験」は女性が男性よりも6.3ポイント高くなっている。「直接ではないが、言動や態度からそのように感じた経験」はほぼ同じ結果になっている。



※意識

性別役割に関する17項目（自己認識の3項目を除く）について、各項目「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の回答率の平均（%）を男女別に算出した。

※直接言われたり、聞いたりした経験

性別に基づく役割や思い込みについて「直接言われたり、聞いたりしたことがある」の回答率の17項目平均（%）を男女別に算出した。

※言動や態度から感じた経験

性別に基づく役割や思い込みについて「直接ではないが、言動や態度からそのように感じたことがある」の回答率の17項目平均（%）を男女別に算出した。

学生／調査の概要

◆ 調査の対象

本市内の大学および短期大学に通う学生

◆ 実施方法

大学及び短期大学の事務局等を通じた配布・インターネット上での回収

◆ 調査期間

令和7年6月25日～同年7月31日

◆ 有効回答数

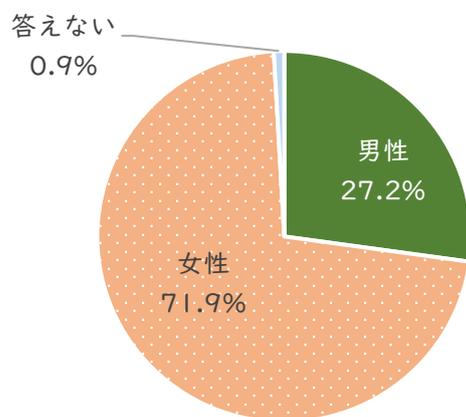
有効回答数
887件

◆ 概要版を読む際の注意事項

- ・ 図表中の「N」(Number of cases の略)は、無回答を除いた設問に対する有効回答者の総数を示しており、回答者の構成比(%)を算出する際の基数となる。
- ・ 回答の比率(%)は、小数点第2位を四捨五入しているため、単一回答の設問でも各選択肢の回答に関する数値の合計が100.0%にならない場合がある。
- ・ 回答の比率(%)は、質問の回答者数を基礎として算出しているため、複数回答の設問はすべての比率を合計すると、100.0%を超える場合がある。
- ・ 回答の比率(%)の差分等は、小数点第2位以下を含む元データに基づいて計算し、その結果を小数点第2位で四捨五入して小数点第1位まで表示しており、図表上で示す比率を単純に減算した値と、計算値が一部異なる場合がある。
- ・ 性別の質問で「答えない」を選択した回答者は、8人(全体の0.9%)であり、全体の集計結果には、「答えない」の回答者を含む。図表等では、「答えない」の回答者の表示は省略している。
- ・ 「アンコンシャス・バイアス」は、心理学の学術上は潜在的バイアスとも呼ばれる。これらは潜在的なものであることから、学術上、専門的な手法によって測定することは可能だが、意識的に回答を行うアンケート調査の手法で把握することは非常に困難であるとされている。したがって本調査は、心理学の学術上用いられるアンコンシャス・バイアスを調査するものではないことを申し添える。

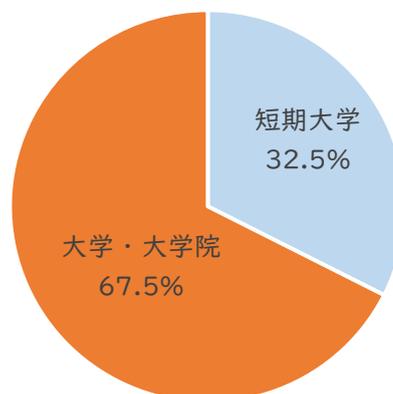
学生／回答者の基本情報

【性別】



N=887

【学校】



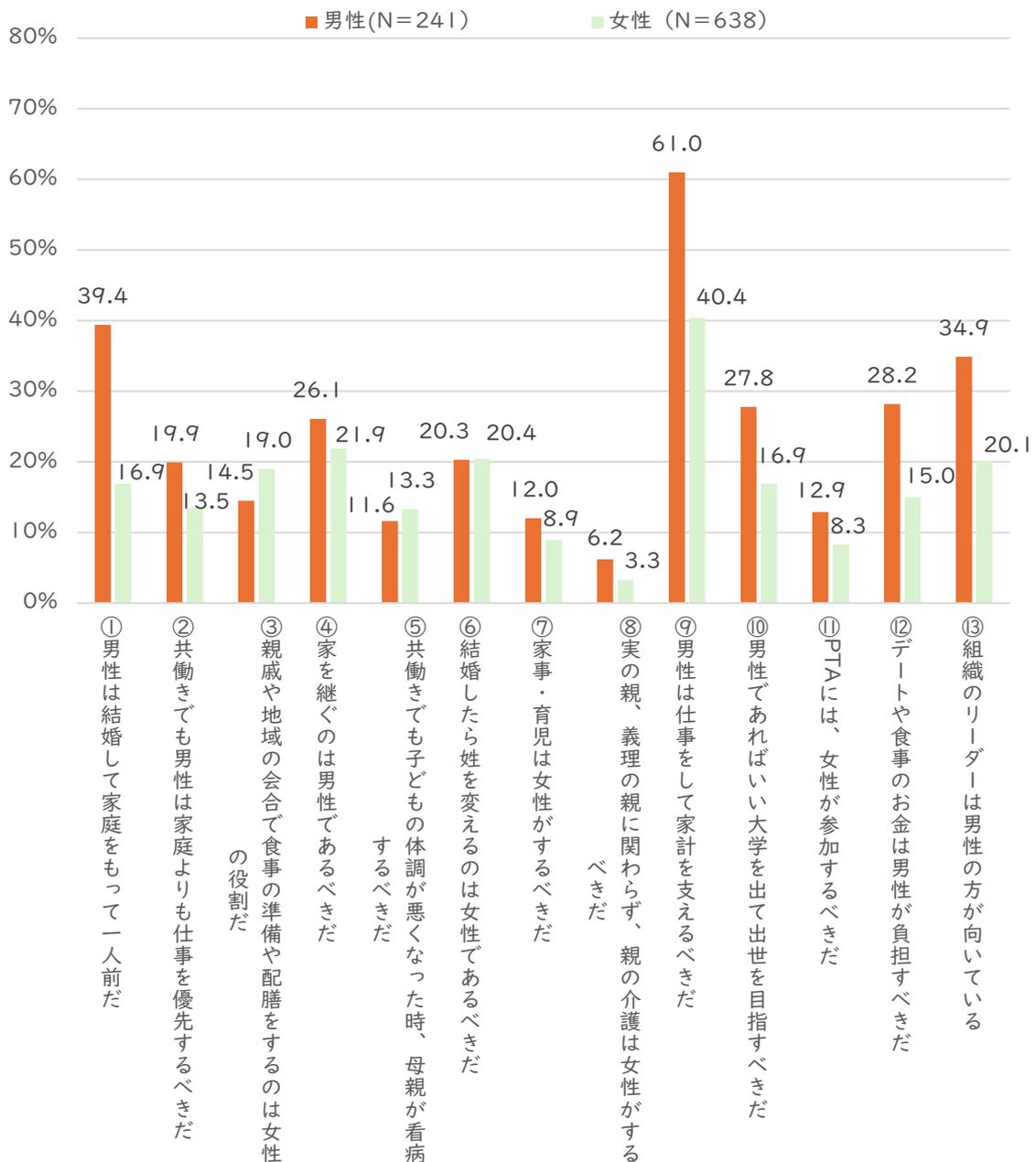
N=887

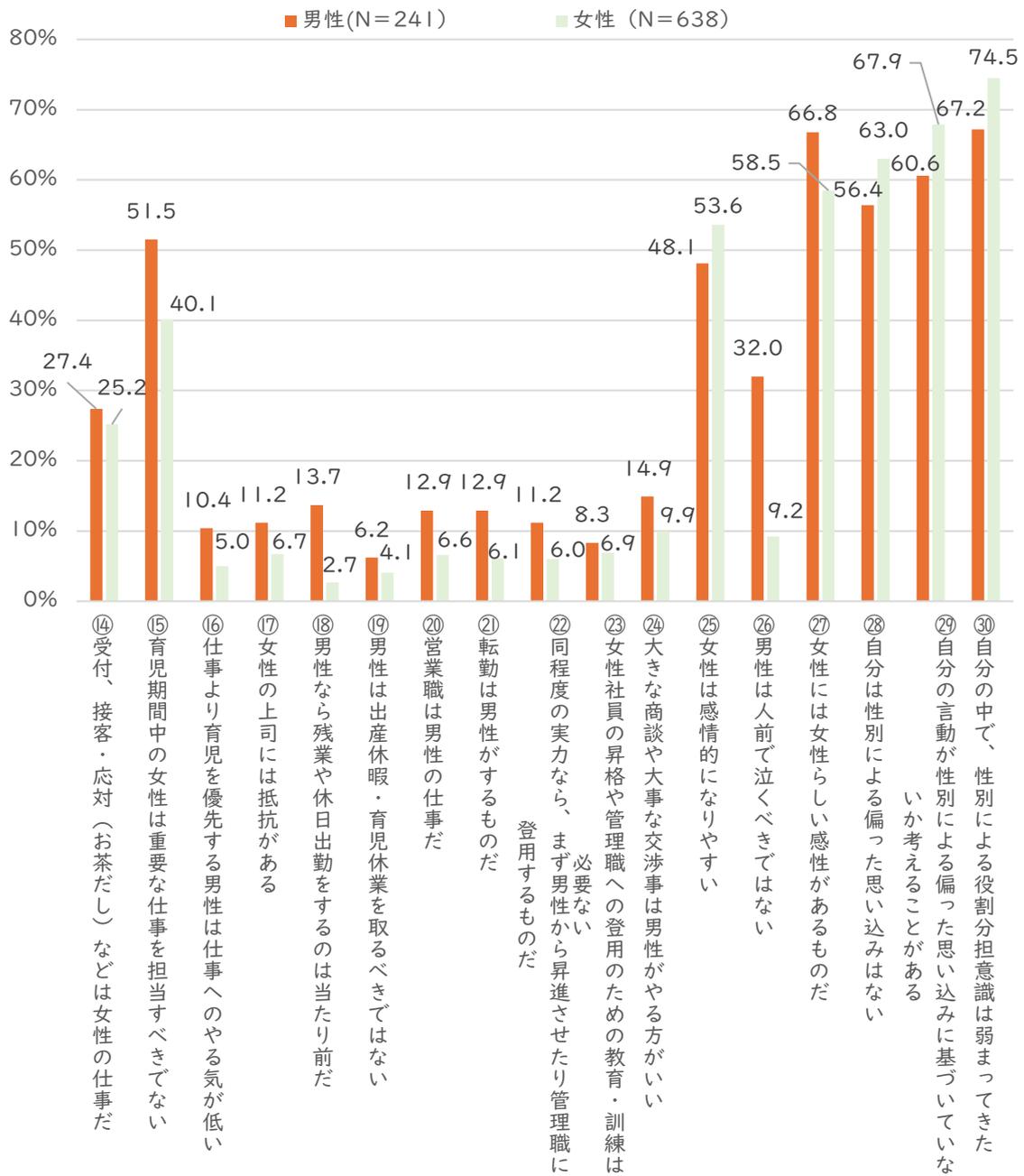
学生／性別役割意識

◆ 本市の男女比較

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合を比較すると、自己認識に関する3項目(⑳～㉓)を除いた27項目中、23項目で男性の割合が女性よりも高い。

また、男性が10ポイント以上上回った8項目中7項目は、「男性は～べきだ(～べきではない)」といった男性に関する項目で、男性は自身の性別役割を強く意識している傾向がうかがえる。





学生／性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験

◆ 全体

性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験について、「直接言われたり、聞いたりしたことがある（直接経験）」と「直接ではないが、言動や態度からそのように感じたことがある（間接経験）」、「テレビや雑誌、インターネットなどのメディアで見たことがある（メディア経験）」の割合を示した。

全 27 項目中 26 項目で、「テレビや雑誌、インターネットなどのメディアで見たことがある（メディア経験）」が最も高い。

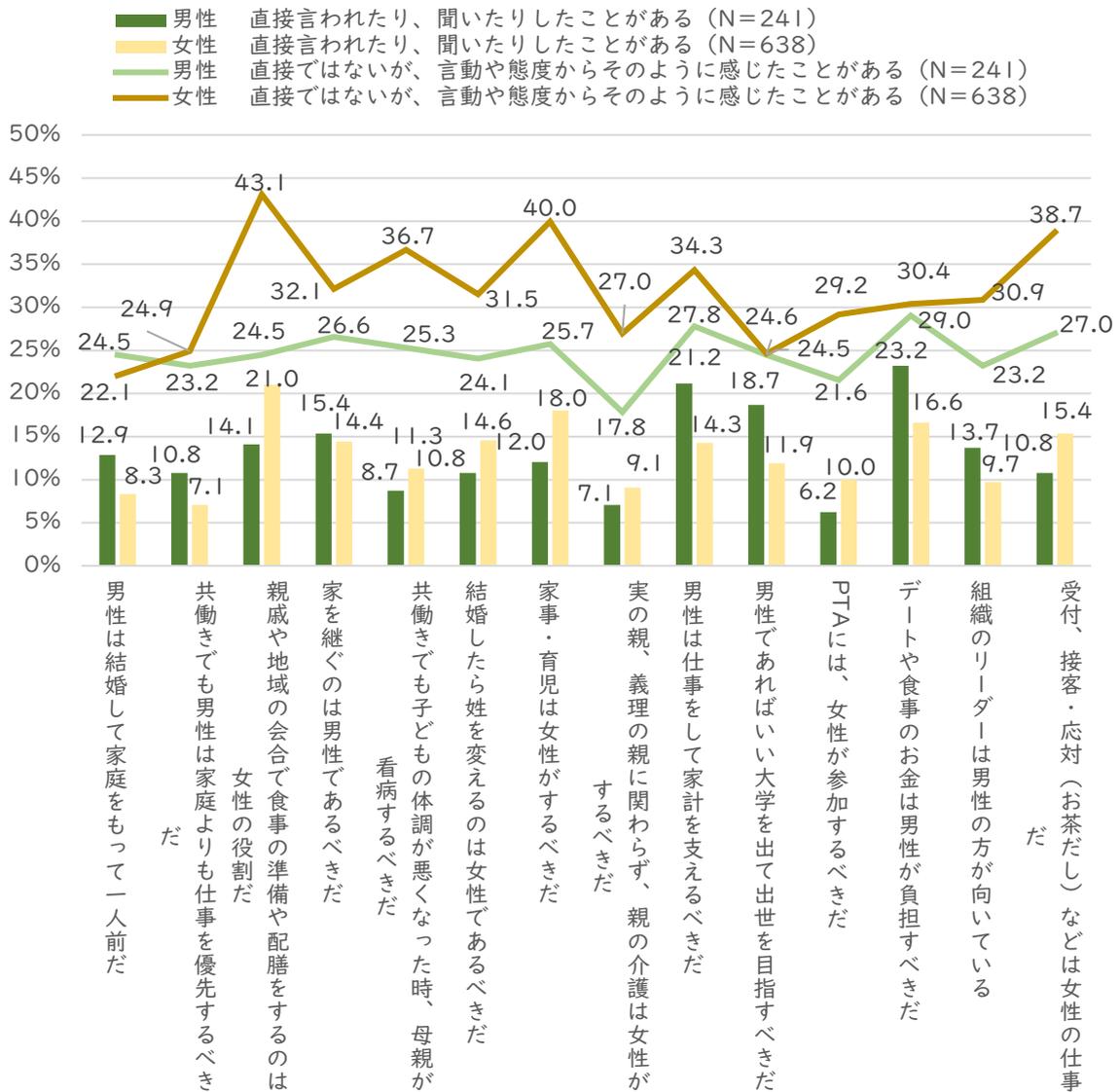
「親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ」のみ、「直接ではないが、言動や態度からそのように感じたことがある（間接経験）」が最も高くなっている。

性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験 回答数：887件		直接経験 (%)	間接経験 (%)	メディア経験 (%)	直接-間接 (%)
家庭・コミュニティでの場面	男性は結婚して家庭をもって一人前だ	9.8	22.7	41.0	-12.9
	共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先すべきだ	8.2	24.2	42.2	-16.0
	親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ	19.2	37.9	32.2	-18.7
	家を継ぐのは男性であるべきだ	14.9	30.6	41.7	-15.7
	共働きでも子どもの体調が悪くなった時、母親が看病すべきだ	10.7	33.6	35.2	-22.9
	結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ	13.5	29.2	41.6	-15.7
	家事・育児は女性がすべきだ	16.5	36.2	41.6	-19.7
	実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がすべきだ	8.5	24.4	36.0	-15.9
	男性は仕事をして家計を支えるべきだ	16.3	32.7	43.4	-16.3
	男性であればいい大学を出て出世を目指すべきだ	14.0	24.8	39.1	-10.8
	PTAには、女性が参加するべきだ	8.9	27.4	27.5	-18.5
	デートや食事のお金は男性が負担すべきだ	18.8	30.0	51.9	-11.2
職場での場面	組織のリーダーは男性の方が向いている	10.9	28.5	34.0	-17.6
	受付、接客・応対（お茶だし）などは女性の仕事だ	14.0	35.6	40.4	-21.6
	育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない	9.2	24.8	39.6	-15.6
	仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い	6.7	19.4	29.7	-12.7
	女性の上司には抵抗がある	4.6	15.8	32.0	-11.2
	男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ	6.1	17.8	32.6	-11.7
	男性は出産休暇／育児休業を取るべきでない	6.1	21.5	38.3	-15.4
	営業職は男性の仕事だ	6.2	19.4	32.4	-13.2
	転勤は男性がするものだ	5.7	17.2	28.0	-11.5
	同程度の実力なら、まず男性から昇進させたり管理職に登用するものだ	5.4	19.8	36.6	-14.4
	女性社員の昇格や管理職への登用のための教育・訓練は必要ない	5.2	15.4	26.8	-10.3
その他	大きな商談や大事な交渉事は男性がやる方がいい	5.9	20.2	32.0	-14.3
	女性は感情的になりやすい	29.0	36.4	38.4	-7.4
	男性は人前で泣くべきではない	21.2	29.7	39.0	-8.5
女性には女性らしい感性があるものだ	25.5	32.6	35.1	-7.1	

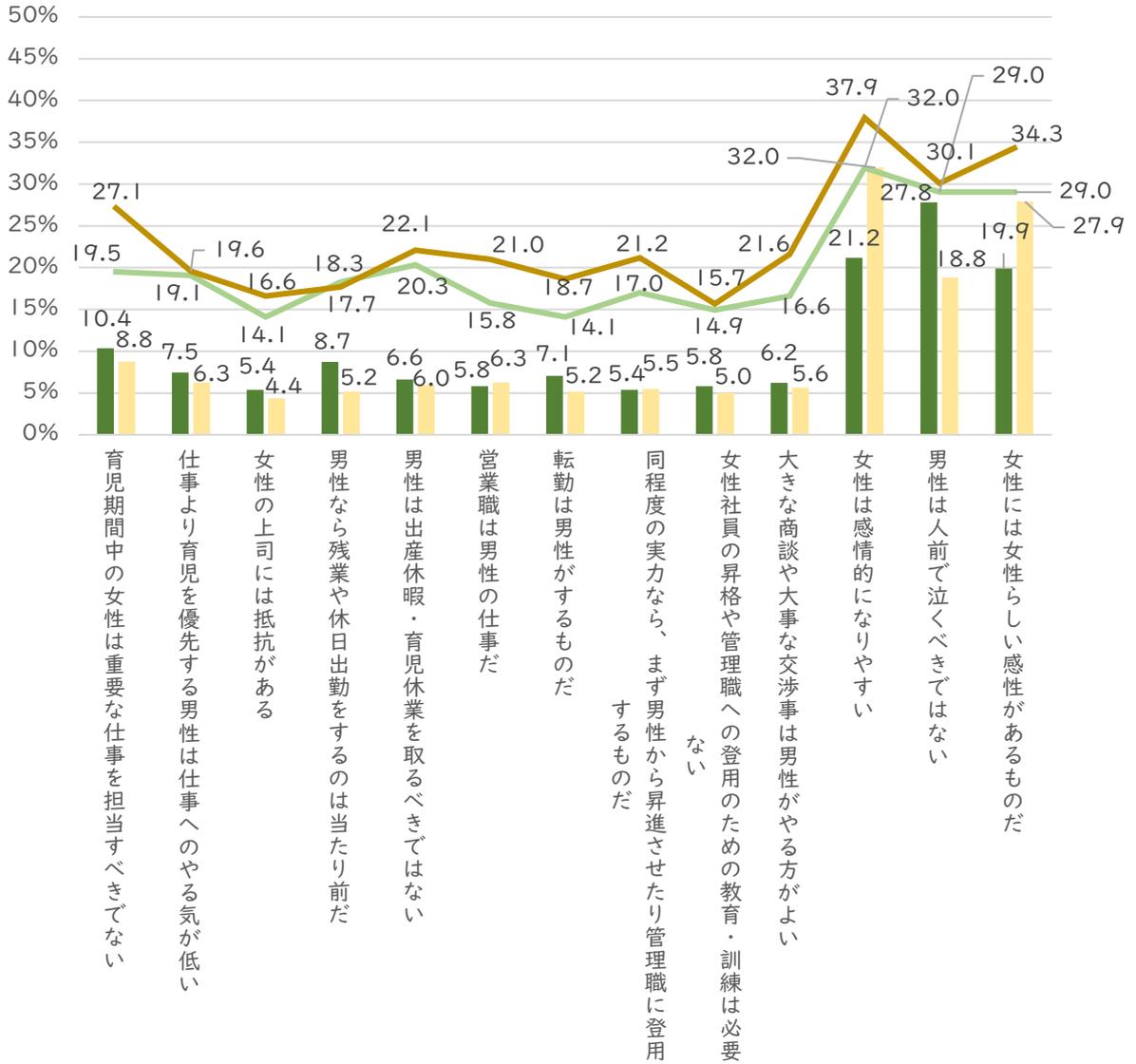
◆ 本市の男女比較

性別に基づく役割や思い込みを「直接言われたり、聞いたりした経験」において、男女間で最も大きな差が出たのは、「女性は感情的になりやすい」（男性 21.2%、女性 32.0%）で、女性の方が 10.8 ポイント高い。全体的には、男女差は小さい傾向にある。

「言動や態度から感じた経験」において男女間で最も大きな差が出たのは、「親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ」（男性 24.5%、女性 43.1%）で、女性の方が 18.6 ポイント高い。全 27 項目中 25 項目で女性の割合が男性よりも高く、女性の方が言動や態度から感じた経験が多い傾向がうかがえる。



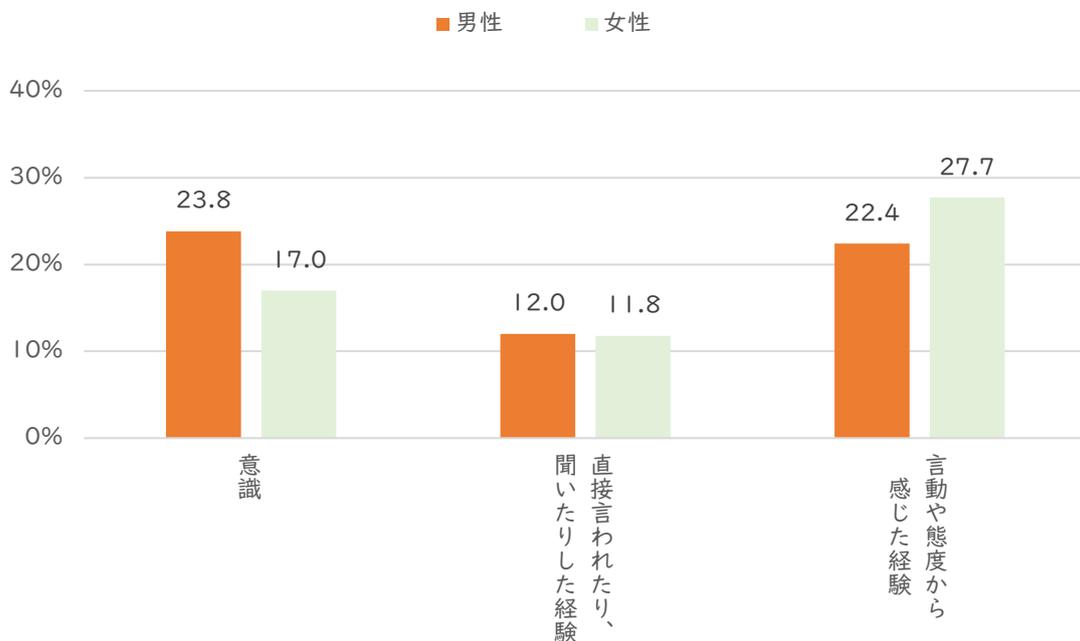
- 男性 直接言われたり、聞いたりしたことがある (N=241)
- 女性 直接言われたり、聞いたりしたことがある (N=638)
- 男性 直接ではないが、言動や態度からそのように感じたことがある (N=241)
- 女性 直接ではないが、言動や態度からそのように感じたことがある (N=638)



学生／性別役割意識と経験の男女差比較

性別役割意識と、性別に基づく役割や思い込みを「直接言われたり、聞いたりした経験」、「直接ではないが、言動や態度からそのように感じた経験」の回答率について、平均値を男女別に算出し比較した。

性別役割「意識」は男性が女性を 6.8 ポイント上回った一方、「直接ではないが、言動や態度からそのように感じた経験」は女性が男性よりも 5.3 ポイント高い。市全体では差がみられた「直接言われたり、聞いたりした経験」は、学生ではほぼ差がみられない。



※意識

性別役割に関する 27 項目（自己認識の 3 項目を除く）について、各項目「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の回答率の平均（%）を男女別に算出した。

※直接言われたり、聞いたりした経験

性別に基づく役割や思い込みについて「直接言われたり、聞いたりしたことがある」の回答率の 27 項目平均（%）を男女別に算出した。

※言動や態度から感じた経験

性別に基づく役割や思い込みについて「直接ではないが、言動や態度からそのように感じたことがある」の回答率の 27 項目平均（%）を男女別に算出した。

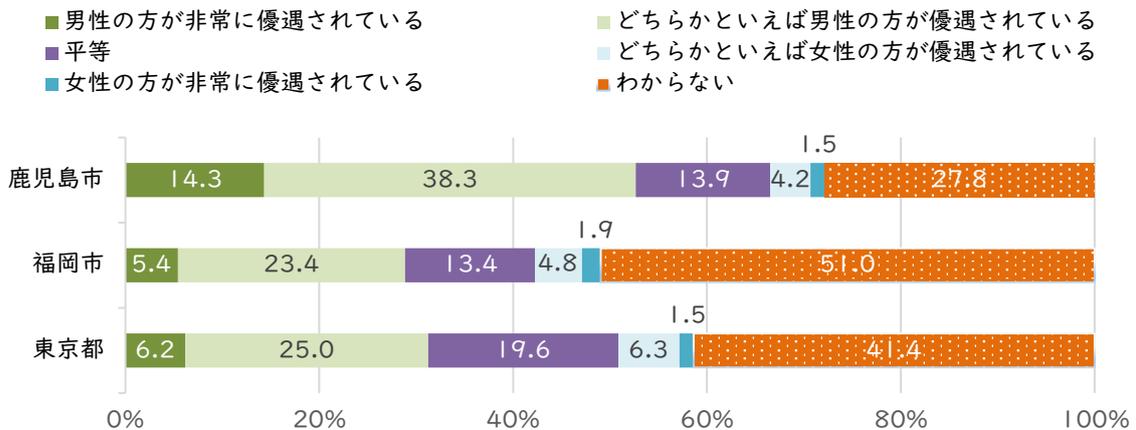
学生／男女平等意識

本市と東京都、福岡市における男女の地位のイメージについて、「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」「平等」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」「女性の方が非常に優遇されている」「わからない」の5段階の尺度でたずねた。

『男性優遇』（「男性の方が非常に優遇されている」＋「どちらかといえば男性の方が優遇されている」）の割合は、本市52.6%、福岡市28.8%、東京都31.2%で、本市が他の地域を20ポイント以上上回っている。

『女性優遇』の割合は、本市5.7%、福岡市6.7%、東京都7.8%で、全地域1割に満たなかった。

さらに、「平等」と答えた人は、本市13.9%、福岡市13.4%、東京都が19.6%で、東京都が最も「平等」と感じている人が多くなっている。



(N=887)

	鹿児島市	福岡市	東京都
■ 男性の方が非常に優遇されている	14.3	5.4	6.2
■ どちらかといえば男性の方が優遇されている	38.3	23.4	25.0
■ 平等	13.9	13.4	19.6
■ どちらかといえば女性の方が優遇されている	4.2	4.8	6.3
■ 女性の方が非常に優遇されている	1.5	1.9	1.5
■ わからない	27.8	51.0	41.4

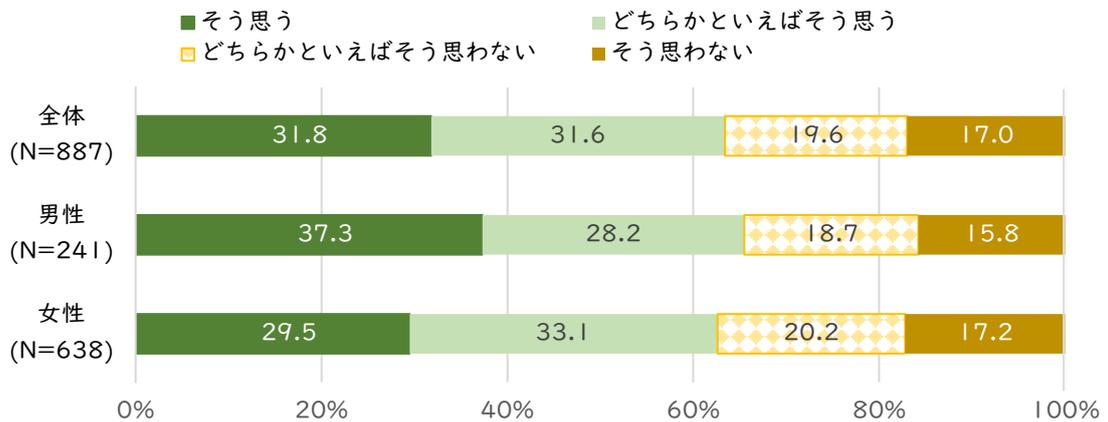
学生／本市への定住意向

◆ 全体・男女別

卒業後、本市へ定住したいかについて、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の4段階の尺度でたずねた。

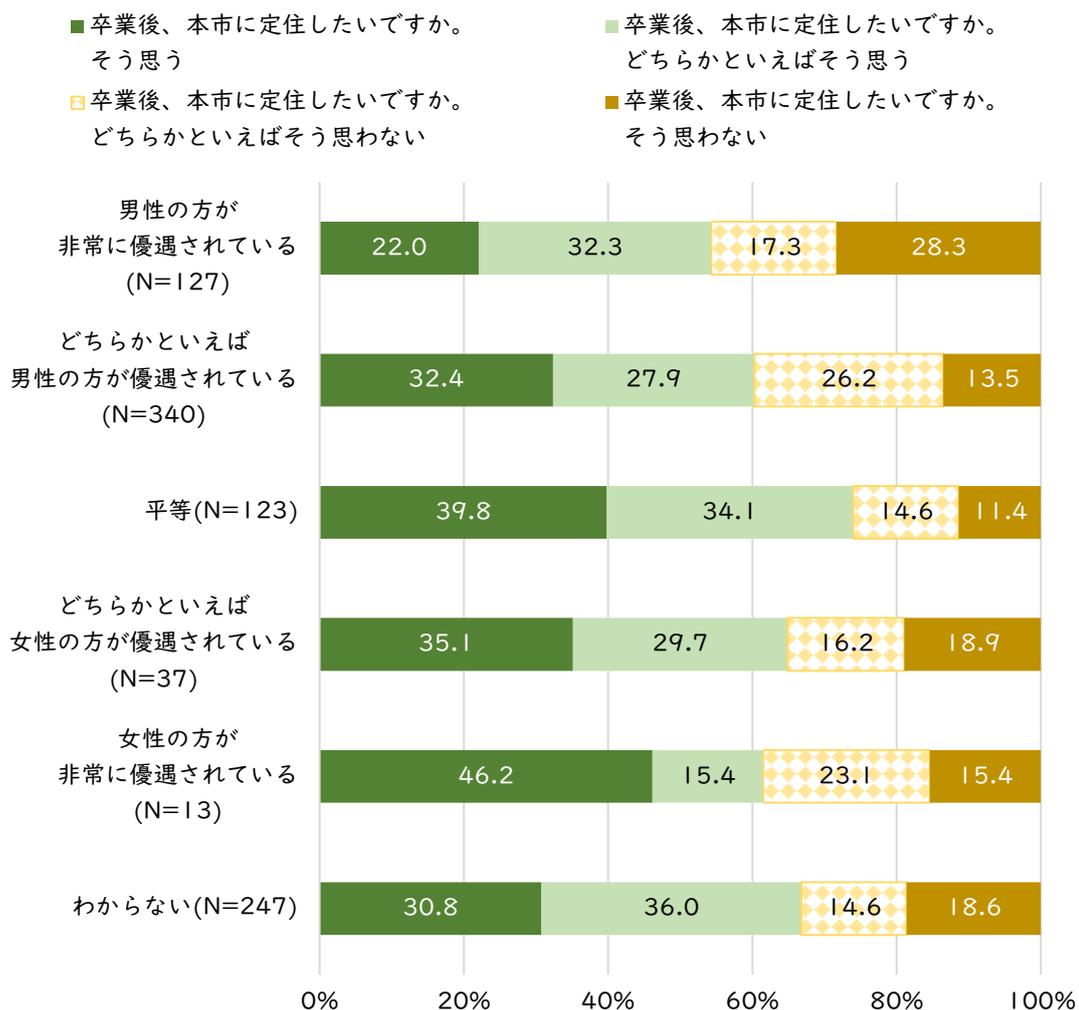
全体で見ると、『そう思う』（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）は63.4%となっている。

男女別で見ると、『そう思わない』（「そう思わない」＋「どちらかといえばそう思わない」）は、男性34.5%、女性37.4%で、女性が男性を2.9ポイント上回り、女性の方が本市への定住意向を持つ割合がやや低い。



◆ 男女平等意識別

本市における男女の地位を「平等」と答えた人について、本市への定住意向を比較すると、「卒業後、本市に定住したいと思う」(39.8%)が最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」(34.1%)、「どちらかといえばそう思わない」(14.6%)、「そう思わない」(11.4%)となり、本市の男女の地位が平等だと感じている人は定住を希望する傾向がうかがえる。



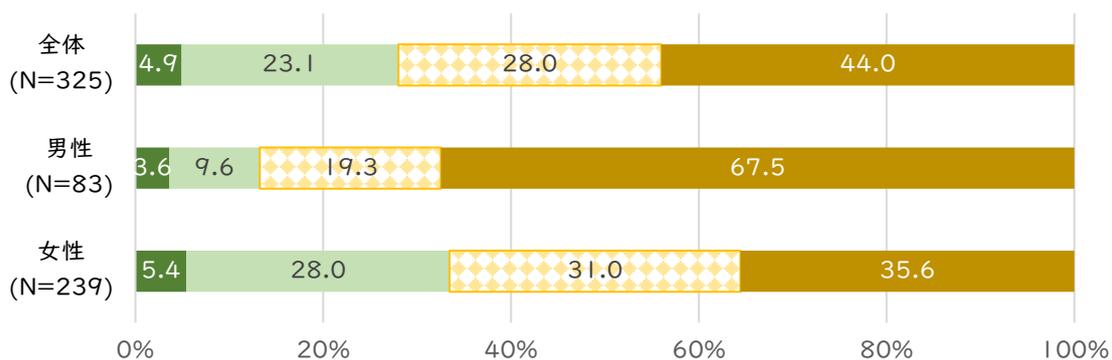
◆ 本市における性別による偏った思い込みによる影響

「まったく影響を与えていない」は、全体で見ると44.0%と最も高く、男女別にみると男性67.5%、女性35.6%と、男性が31.9ポイント上回る。

また、『影響を与えている』（「非常に影響を与えている」＋「やや影響を与えている」）は男性13.2%、女性33.4%で、女性の方が20.2ポイント高い。

本市における性別による偏った思い込みは、男性より女性の定住意向に影響を及ぼしている傾向がみられた。

- 本市における性別による偏った思い込みは、定住意向にどの程度影響を与えていますか。非常に影響を与えている
- 本市における性別による偏った思い込みは、定住意向にどの程度影響を与えていますか。やや影響を与えている
- 本市における性別による偏った思い込みは、定住意向にどの程度影響を与えていますか。あまり影響を与えていない
- 本市における性別による偏った思い込みは、定住意向にどの程度影響を与えていますか。まったく影響を与えていない

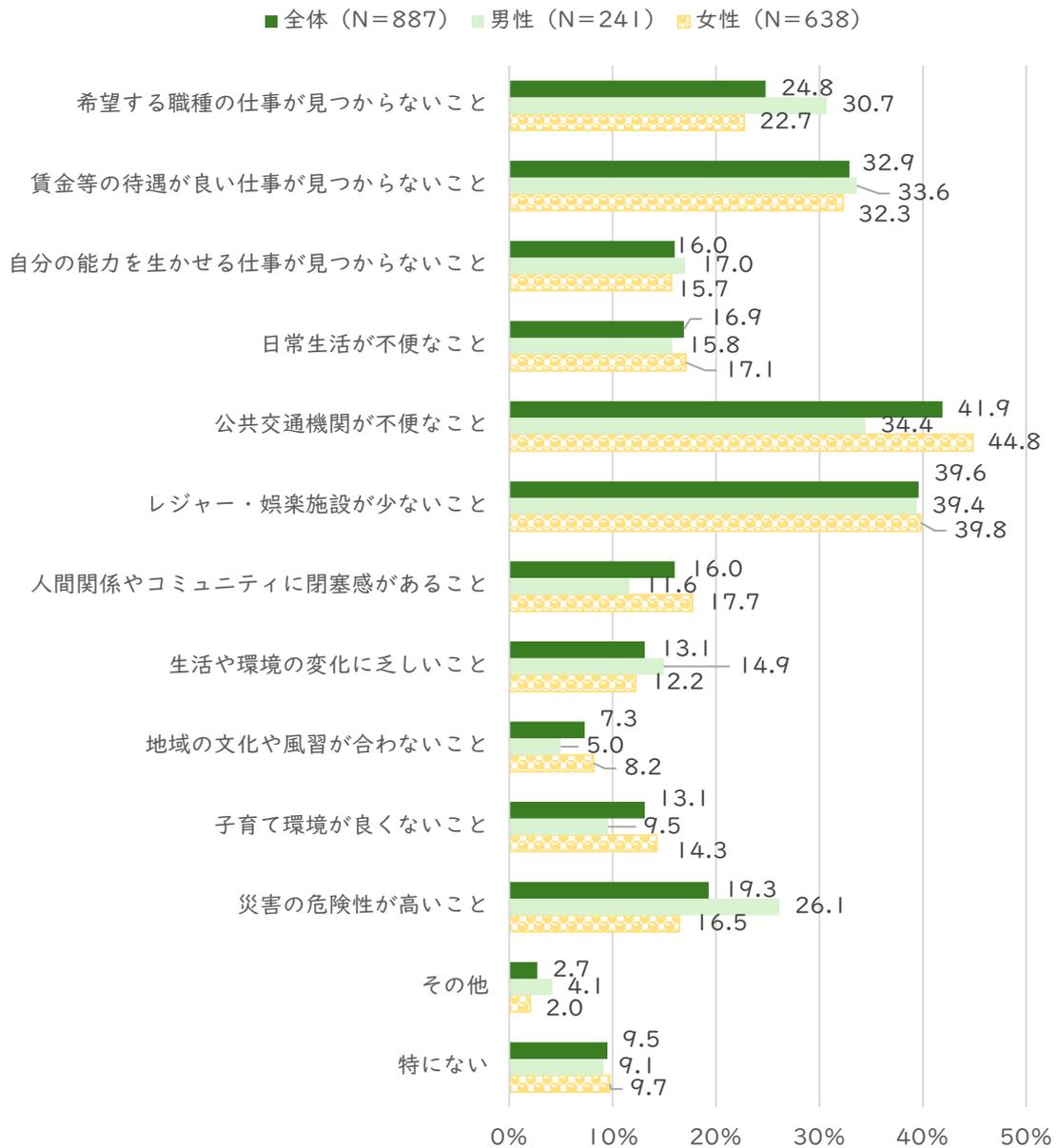


学生／本市に定住すると仮定した場合の不安・懸念点

◆ 全体・男女別

全体で見ると、「公共交通機関が不便なこと」(41.9%)が最も高く、次いで「レジャー・娯楽施設が少ないこと」(39.6%)、「賃金等の待遇が良い仕事が見つからないこと」(32.9%)となっている。

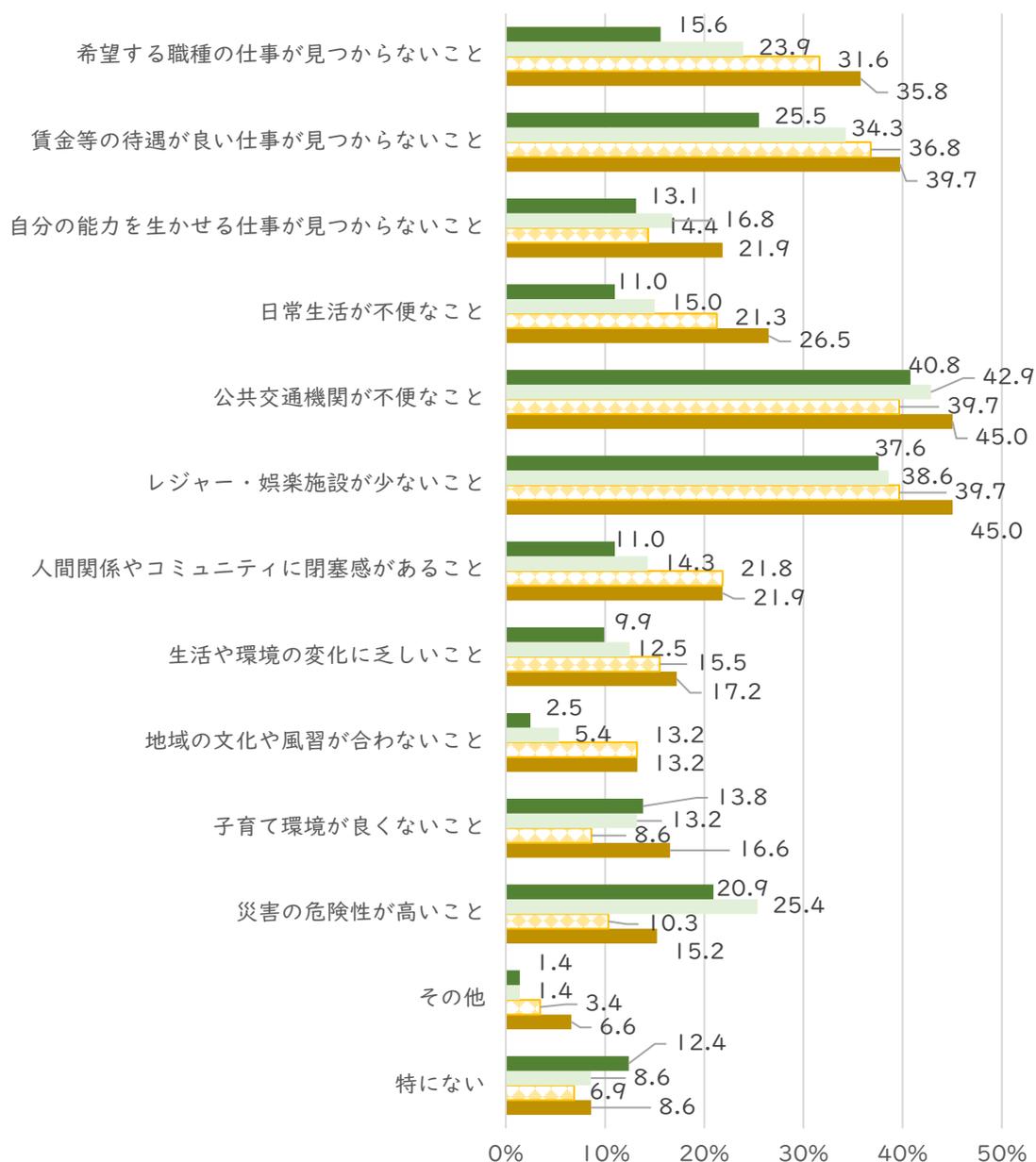
男女別で見ると、上位3位は男女とも全体と同じ項目となっている。



◆ 本市への定住意向別

本市への定住意向別にみると、「希望する職種の仕事が見つからないこと」「賃金等の待遇が良い仕事が見つからないこと」「日常生活が不便なこと」「レジャー・娯楽施設が少ないこと」「人間関係やコミュニティに閉塞感があること」「生活や環境の変化に乏しいこと」「地域の文化や風習が合わないこと」は、本市への定住意向が低い人ほど懸念する傾向がみられた。

- 卒業後、本市に定住したいですか。そう思う (N=282)
- 卒業後、本市に定住したいですか。どちらかといえばそう思う (N=280)
- 卒業後、本市に定住したいですか。どちらかといえばそう思わない (N=174)
- 卒業後、本市に定住したいですか。そう思わない (N=151)



性別による無意識の思い込み
(アンコンシャス・バイアス)
に関する市民意識調査
概要版

鹿児島市市民局人権政策部 男女共同参画推進課
〒890-0054
鹿児島市荒田1丁目4番1号
電話 099-813-0852 FAX099-813-0937